

〈パネル・ディスカッション〉

(14:40~16:00)

☆主題 「現職教員の研修におけるリトミックの意義」

- ◎企画・司会者；板野 和彦（長野県短期大学）
・パネラー；仲嶺 まり子（別府大学短期大学部）
・パネラー；塩原 麻里（東京学芸大学）

〈企画趣旨〉

学校教育における現職教員の研修については、教育職員養成審議会より出された「教員の資質能力の向上方策等について（答申）」（昭和62年12月）により「現職研修については、日々の教育実践が教員としての力量を高めることは確かであるが、更に、別の角度からの研修を通じて教育実践の在り方を見直すことも重要であることから、このような研修を組織的、体系的に実施する必要がある。」と規定され、様々な方法で実施されてきた。

日本ジャック＝ダルクローズ協会（F. I. E. R 日本支部）のニューズレターによると、平成17年春から夏にかけて全国で20近いリトミックの講習会が開催される予定である。またここに記載されたもの以外に年間を通して定期的に研修を行っている団体も多数あり、これらも入れると数十のリトミックに関する講習会が全国で展開されていることになる。参加者は保育士、幼稚園・小学校・中学校などの教諭、ピアノレスナーなどバラエティーに富んでいるものの、子どもたちの指導に直接携わる現役の教育者であることはほぼ共通しており、これは教育制度として定められたものではないが、主体的におこなわれている現職者の研修であると考えることができる。

本パネル・ディスカッションでは、リトミック講習会などを中心とした現職者の研修の意義や内容などについて検討してゆきたい。ジャック＝ダルクローズは「大事なことは、教育が知的な発達と身体的な発達を平行して前進させることであって、リトミックは、この二重の意味で有益な影響をおよぼすものと私は思うものである。」と述べており、このような内容を実現するために研修がどのように行われるべきなのか論議を深めたい。

メモ欄
